

1 教育目標

(1) 本校の教育目標

○ すすんで学ぶ子	《深く考え、自らすすんで学ぶ子》
○ 思いやりのある子	《人や物に愛情をもち、生命の尊さを知る子》
○ たくましい子	《心や体をきたえ、たくましく生きぬく子》

(2) 経営方針

ア 確かな学力の育成

多様な学習方法や個に応じた学習指導法を研究し、基礎的・基本的な知識や技能を身につけさせるとともに、「主体的・対話的で深い学び」に結びつく授業法を研究し、児童の思考力・判断力・表現力の育成に努める。

イ 豊かな心の育成

豊かな人間性と生涯学習の基礎となる資質を育むために、「心の教育」を特に重視する。道徳教育、体験活動、交流活動等を通して、自尊感情を高め、豊かな感性と思いやりの心を育成する。また、規範意識の高揚に努め、望ましい社会性を培う。

ウ 健やかな体の育成

健康教育の充実を図るとともに体力づくりの場を工夫し、望ましい生活習慣の定着を図る。また、健康で安全な生活を送るための基礎を培う。

エ 信頼される学校づくり

教員の指導力向上を図り、家庭や地域から信頼される学校づくりに努める。また、地域の教育力を積極的に取り入れ、地域に学ぶ教育活動を推進する。家庭、地域と協力し、児童に安心・安全な環境をつくる。学校の取り組みについて情報発信の充実を努め、家庭や地域から理解を得る。

(3) 本年度の重点努力目標

ア 確かな学力の向上

- ・木曽川地区小中学校共通の学習ルール・マナーの指導をすすめ、学ぶ態度を身につけさせる。
- ・基礎学力の向上を図るため、児童が「わかる・できる・身につく」を実感できる授業を目指して指導法を工夫する。特に現職教育では「主体的・対話的な学習活動のありかた」に焦点を当てて研究を深める。
- ・思考力、判断力、表現力、コミュニケーション能力を身につけさせるために、児童の言葉を生かした授業展開の工夫（発問・切り返しの工夫）に努める。
- ・教科担任制を現在の5・6年生に加えて、4年生まで拡大して導入し、きめ細かで質の高い授業を実現する。
- ・発達や障害に対する教員の理解を深め、個に応じた指導の充実を図る。

イ 心の教育の推進

- ・道徳教育、人権教育の充実に努め、道徳性を養う。
- ・さまざまな講演会や朝礼講話等をもとに、自分の生き方を考えさせることで自尊感情を高め、「ともに生きる」の合言葉のもと、よりよい人間関係を築いていけるようにする。
- ・体験活動や児童会活動、様々な読書活動等、特別活動を効果的に展開し、豊かな感性を養う。
- ・心を豊かにする体験活動や道徳教育を充実させることで、いじめの未然防止に努める。
- ・不登校対策の一つとして、別に定める運営方針のもと、サポートルームの運営を充実させ、一人一人を大切にす指導に努める。
- ・様々な教育活動の中で、計画の立案から実行を児童に主体的に経験させることで、リーダーシップやフォロワーシップを育て、達成感や成就感が感じられて自己肯定感が高まるようにする。

ウ 健やかな体の育成

- ・体育の授業、体育的行事などを通して、運動に親しませ、体力の向上を図る。
- ・給食、栽培活動等を通して、食への関心を高め、その大切さを理解させる。
- ・「早寝、早起き、朝ごはん」を推奨するなど、家庭と協力して健康教育をすすめる。
- ・交通安全指導、避難訓練、危険予知トレーニング等の安全教育を充実させ、安全への意識を高める。

エ 信頼される学校づくり

- ・OJTにより、教員が学ぶ場を増やし、指導力の向上に努める。
- ・情報教育、国際理解教育、環境教育、キャリア教育などを1～6年生までの教育課程に位置付けて計画的に実施する。
- ・3学期に学習発表会を開催し、1年間の学習の成果や成長の足跡を披露することで、児童が自己肯定感を高める機会とするとともに、保護者が学校教育の様子を知る一助とする。
- ・地域の教育力を積極的に取り入れ、地域に学ぶ教育活動を推進する。
- ・コミュニティ・スクール（学校運営協議会）を活性化させ、家庭、地域が参画のもと、児童にとって安心、安全な環境を整える。また、小中連携を促進し、9年間を見通した教育に取り組む。
- ・学校の取り組みについて家庭や地域への情報発信の充実に努める。

オ 多忙化解消に向けて

- ・業務改善に対する職員の意識を高め、全職員で仕事の効率化に取り組む。
- ・学校教育活動、行事、会議等を精選し、物理的にも精神的にも児童と余裕をもって向き合うことができるようにする。
- ・「ひとりにしない、みんなでやる」を合言葉に、校務分掌の平準化を図り、チームワークでも多忙化を解消できる職場づくりに努める。